

施策評価シート （評価対象年度：平成30年度）

1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	1 文化財の把握と公開	② 施策番号	7608
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	5 まちの風土や歴史的資産が今に息づくとともに、これらを基盤とした新たな文化が花開くまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	1 歴史的資産の活用		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
教育部	生涯学習課		

2. 施策の現状把握

[1] 施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	文化財、市民
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	埋蔵文化財の適切な記録保存を行い、調査成果の公表をはかる。
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか)	埋蔵文化財緊急調査事業への国庫補助額は減額傾向にあるが、これは文化財調査や記録保存の必要性が減じた訳ではなく、むしろ郷土の資産として文化財活用の重要性が高まっていることによるものである。

[2] 施策指標及び推移

施策指標(成果指標)	単位	指標とした理由・考え方
① 調査した文化財のうち、その成果を公表したものの割合 計算式: 調査報告書、展示会等により成果を公表した割合	%	埋蔵文化財の適切な記録保存を行い、調査成果の公表をはかることで、市民のニーズに沿う。
② 計算式:		
③ 計算式:		

	指標名	単位	H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	備考	
①	調査した文化財のうち、その成果を公表したものの割合	%	目標値	100	100	100	—	—	
			実績値	100	100	100	—	—	
			達成率	100.0%	100.0%	100.0%			
②			目標値						
			実績値						
			達成率						
③			目標値						
			実績値						
			達成率						

[3] 施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標				総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化	
		指標名	単位	H29実績	H30実績	R1見込	H29実績	H30実績	R1見込	総合評価		今後の方向性
1	市内遺跡発掘調査事業	公表した文化財の割合	%	100	100	100	9,915	9,388	—	D	イ e	
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
計	1						9,915	9,388	0			

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのよう貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	市内埋蔵文化財を詳細に調査し適切な記録保存を行い、調査報告書等として刊行し広く公開することは、活用すべき歴史的資産の体系的な把握に直結する重要な施策であると位置づけられる。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	昭和50年代後半以降、本市行政が市内埋蔵文化財の調査を担ってきたが、これまでに調査が行われたのは全体の数%に過ぎないと推定される。経済情勢を反映して、調査件数の増減は予想されるが、まったく無くなるとは考えられず、今後も未知なる歴史的資産の把握と公開のためにも地道な調査、成果の記録保存は継続していかなければならない。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	根幹となる埋蔵文化財の調査や諸記録の適切な保存、一次的な公開は行政が担うべき責務であって、市民や団体等との役割分担は困難である。ただし、近隣市町との事業の広域化などは考えられる。また、さらなる公開活用については、市民のニーズに見合った活用のための手段を、市民や諸団体との協働で行う余地は十分に考えられる。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	毎年度、全ての調査成果を公開しており、把握と公開といった目標は達成できているものとするため適正である。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	発掘調査等によって、市内の埋蔵文化財の把握と公開をおこなうことにより、歴史的資産の保護・活用を進めることが可能となる。このことは、泉南市の新たな文化を構築する際の礎となるものであり、今後とも施策の重点事業として継続していくべきものである。

4. 一次評価(所管課評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
一次評価	C	採用年次が近い職員が継続的に担当していることから、10数年後には経験のある職員がすべて退職してしまうことが予想される。恒久的に保存されるべき歴史的資産を扱う以上、後継者の育成も含め、今後の事業の継続方法についての検討が急務である。	

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	これまでの調査で蓄積された歴史資産、歴史情報のストックをさらに活用すべく、企画展示や啓発書の刊行、市ウェブサイト等の充実をはかり、市民との情報共有をはかる必要がある。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	さらに精緻な埋蔵文化財調査を実施するため、職員の研鑽、研修機会の充実をはかることが望まれる。
中長期的対応 (3~5年をめぐりに取り組む改善案)	後継人材の育成という課題も含め、近隣市町との広域化の協議など、事業の継続実施に向けた運営方法についての検討が必要。

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
二次評価	C	埋蔵文化財の適切な記録保存を行い、調査成果の公表をはかることで施策達成に向けて適切に取り組まれている。 中長期的展開については、事業の継続実施に向け様々な運営方法について検討を進められたい。	